

酪農家にゆとりと休日を 酪農ヘルパー

酪農ヘルパー 有限会社ファム・エイ もとやま 本山 あかねさん

取材協力/矢野牧場



何度も通ううちに牛の個性もわかるようになるのだそう



本山さんは、牧場主の矢野さんも信頼を寄せるヘルパーの一人

「哺乳の時間が一番幸せなんです」と本山さん

confa

「confa」はConsumer(消費者=道民)とFarmer(農業者)のConsensus(合意)から名付けたもので、「消費者と農業者がもっとふれあえるように」「都市と農村をつなぐ架け橋になりたい」という想いを込めています。

もくじ 2021 春号 vol.56

- 1 [特集] 農業を支える、働き手たち。
- 7 農業×まちおこし
- 9 ふれあいファームへようこそ
- 13 キラリ★農業系高校
- 15 コンファ農業教室
- 17 農のこぼれ
- 18 北海道からのお知らせ
- 19 花・野菜の種苗 SHOP

【酪農ヘルパーの1日】

5:30 朝の作業開始

- ・エサ寄せ
- ・搾乳準備
- ・搾乳

8:30 朝の作業終了

- ・事務所に行きシフトの確認
- ・上司とのミーティング

10:30 一旦帰宅

15:30 夕方作業開始

- ・飼料の配合・給餌
- ・搾乳準備
- ・搾乳
- ・哺乳

19:30 業務終了 帰宅

酪農家に欠かせない存在

生き物が相手の酪農は、搾乳や餌やりなど365日作業が欠かせない。そのため、冠婚葬祭でも休みが取りづらいのが現状だ。そんな酪農家が休む際に代わって牧場作業を行うのが酪農ヘルパー。北海道では酪農家6千戸に対して800名を超える酪農ヘルパーが、各地の牧場で汗を流している。

今回、中標津町の矢野牧場でお話を伺った本山あかねさんもその一人。出身は長崎県で、幼い頃から牧場で働きたいという夢を抱いていたという。

「牧場に就職するなどの道もあり

ましたが、すぐに経験を積むことができる酪農ヘルパーを選びました」

広大な北海道へのあこがれからか、志願者は道外からが圧倒的に多い。ちなみに酪農ヘルパーに就くためには、各地で行われる求人イベントや求人募集で、ヘルパー事業を行う利用組合や民間企業を探すのが通例。本山さんの場合は民間企業に就職をした。

「はじめは酪農ヘルパーの先輩に付き、実際の牧場で仕事の流れや器具の使い方などを教わりました」

入社から一年半が過ぎた今では一人です酪農家の元へ。牛舎の掃除、飼料給餌、搾乳や哺乳など、ひと通りの作業をこなせるまでになった。

経験を積んで次のステップへ

酪農ヘルパーは、牧場からの依頼で始まる仕事のため、勤務先は週単位、時には一日単位で変わる。「牛の扱いや使っている器具、さらに作業の進め方や考え方など、酪農家によって仕事のスタイルは千差万別。酪農ヘルパーはさまざまな形態の酪農を経験できる仕事なんです」

そのため、将来酪農家になるためのステップとして、酪農ヘルパーの道を選ぶ人も多い。

「私の将来は、これからゆっくり考えます。今はこうして牛の世話をしているだけで幸せです」と話す本山さん。

酪農ヘルパーを利用していただく牧場主の矢野さんも「酪農は生きもの相手のので、365日24時間稼働し続ける産業。それを支える酪農家がいまの時代に合った豊かな暮らしを送るために、さらに一人でも多くの酪農家を育てるために、酪農ヘルパーは欠かせない存在なんです」と話してくれた。

「特集」農業を支える、働き手たち。

confa公式アカウント

記事の紹介やお知らせなどを配信中！ぜひ、チェックしてくださいね。



Facebook
@confa.hokkaido



Instagram
@confa.hokkaido

電子ブック公開中！ Hokkaido ebooks

こちらのQRコードを読み取ってください。

※スマートフォン、タブレットの方は専用アプリ(無料)をダウンロードのうえ、ご利用ください。



<http://www.hokkaido-ebooks.jp>

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

